都留市史　通史編

盛里村

明治八年九月に朝日馬場、朝日曽雌、与縄の三村が合併してできた新村である。この新村は中央を流れる朝日川ぞいの村々である。道路は雛鶴峠を越えて秋山村に接しているが、朝日川を下ると禾生村、谷村へ連なっている。村役所は朝日馬場の石船神社に置かれ、掲示場も役所の側に置かれている。学校は朝日馬場に置かれて、旭学校が明治七年に、与縄の誉索学校が明治九年に、それぞれ設置されている。

この村の農は二七三戸で、全ての農が養蚕にも従事している。兼業として工が九、商は一九、銃猟が八である。市郡村誌では戸数が三〇三で、人口は一六七九（男八三二、女八四七）である。他への寄留が三四、他よりの寄留が三八である。土地は石土が二分、砂土は三分、あとは野土で、いいとはいえない地質である。

図では樋口堰（馬場組）や保良堰（曽雌組）などが見える。作物は穀類が米麦で、野菜は大根が多く、また桑地が目立つ。この村の田養水や飲料水は、朝日川と大平川から引水する小規模な堰である。

神社は石船神社が馬場組に、五社大神社が曽雌組に、御岳大神社が与縄組の各組に、寺院も本光寺が馬場組に、伝昌寺は曽雌組に、天正寺が与縄組と各組にそれぞれある。